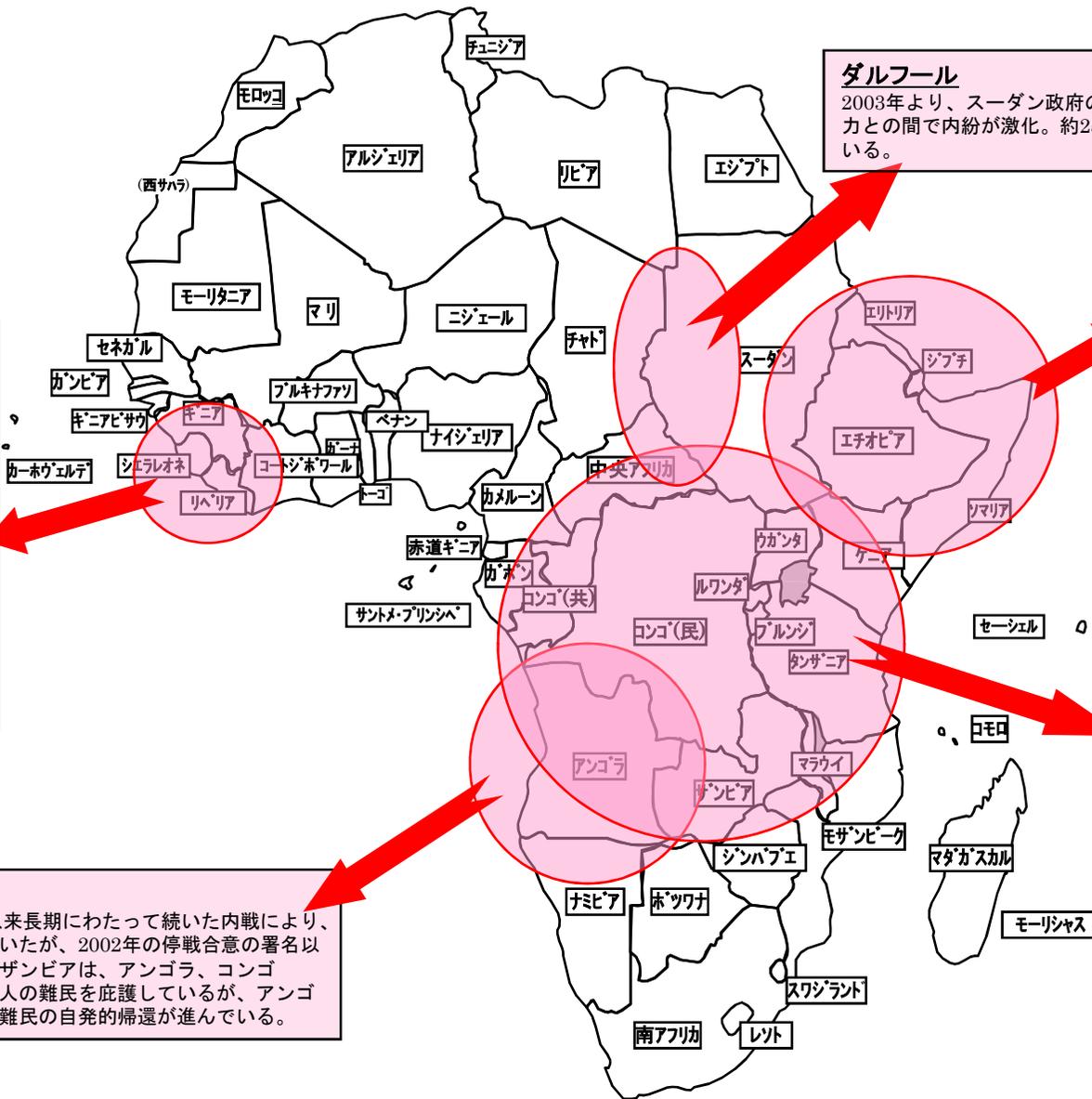


# 難民・国内避難民等

UNHCRが保護・支援の対象とする難民・国内避難民等は、サブサハラ・アフリカ全体で約1018万人（全世界の約30%）



**西アフリカ**  
シエラレオネでは、内戦により発生した約22万人の国内避難民が、2002年12月までにほぼ全員再定住を果たした。また周辺国に逃れた難民については、UNHCRによれば2004年7月の帰還プログラム終了時点までに約27万人が帰国した。リベリアの難民は約1万人。ギニアは10年以上にわたり周辺紛争国からの難民を庇護してきており、依然2万1千人程度の難民を受け入れている。

**南部アフリカ**  
アンゴラでは、1975年の独立以来長期にわたって続いた内戦により、多くの難民が周辺国に流出していたが、2002年の停戦合意の署名以降、難民の帰還が進んでいる。ザンビアは、アンゴラ、コンゴ（民）、ルワンダ等から約8万人の難民を庇護しているが、アンゴラの内戦終結により、アンゴラ難民の自発的帰還が進んでいる。

**ダルフル**  
2003年より、スーダン政府の支援を受けたアラブ系民兵と反政府勢力との間で内紛が激化。約250万人の難民・国内避難民が発生している。

**アフリカの角地域**  
エチオピア・エリトリア間の戦闘再発（2000年5月）により、エリトリアでは大量の難民及び国内避難民が発生したが、難民のスーダンからの帰還が進められている。スーダンでは、南北の内戦により多くの難民がケニア等周辺国に流出したが、停戦合意達成により、難民の帰還が続いている。ソマリアでは国内の不安定な情勢を受け、難民の流出が続いている他、約120万人の国内避難民を抱える。ケニアは、エチオピア、ソマリア、スーダン等から約32万人の難民を庇護している。

**大湖地域**  
1990年に起きたルワンダ内戦、1993年に起きたブルンジ内戦、1998年に発生したコンゴ（民）紛争等によって、多くの難民・国内避難民が発生し、現在もタンザニア、ウガンダ、ザンビア等に多くの難民が滞留している。タンザニアはアフリカ最大の難民等の庇護国であり、コンゴ（民）、ブルンジ、ソマリア等からあわせて約32万2千人の難民を庇護している。また、ウガンダは、スーダン、ルワンダ、コンゴ（民）から約16万人の難民を庇護している。

(注) 1. 難民等とは、難民、国内避難民、帰還民、(正式な身分が未審査の)庇護希望者、無国籍者、戦争被災民などを指す。  
2. 難民等の人数は、別途表記があるものを除き、2008年12月時点の数字。

参考資料: UNHCR